



Metro  
Edmonton  
Japanese  
Community  
School

## コミュニティースクールニュース 2007年12月号

THE ASSOCIATION OF METRO EDMONTON JAPANESE COMMUNITY SCHOOL  
代表者 清水 聡(会長) 10636-148St, Edmonton, Edmonton, Alberta, T5N3H1 TEL: 452-6093  
借用校舎 RICHARD SECORD SCHOOL 4025-117 St  
URL: <http://www.ualberta.ca/~tkin/MEJCS-index.htm>

### ＜会長からのメッセージ＞

クリスマス、お正月のお年玉と子どもたちには待ちに待った冬休みとなりましたが、ご父兄の皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

さて、先日の特別総会で、投票した「私利私欲」ですが参加会員の約70%の方が賛成して下さったのですが75%に満たなくて否決となりました。会員の皆様は今までいろいろとご心配をおかけしておりましたが、これでこの問題も一応決着がつかしました。

2007年下半期の予算ですが今年の「けちけち予算案」と、当初概算で予想していた経費などでうれしい誤算(引越しをしなかったおかげで余計な出費が出さなかった、コピー代が一枚3セントのままで夏休みまですごせた、・・・)などがあり最終的に赤字で決算を向かえられそうです。しかし将来的な学校移転問題や諸経費、人件費の高騰、コピー代の値上げ、「次回北米研修ホスト校になるときのために少しずつ積立預金」や「教師用教科書補助教材積み立て」などこれからのことを考えた予算を作っていかなければなりません。そのためには会費、授業料見直しも考慮しなければなりません。

先日、常田校長先生より配られた「学校の使い方」は読まれたでしょうか。最近、「トイレのいたずら」や「廊下を走り回る」などのいたずらや素行の悪さから、たびたびリチャード校からクレームをつけられておりますし、今後も、このようないたずらが続くようですと今までの良好な関係が崩れる恐れがあります。最悪の場合、この学校から追い出される可能性もあります。これからも、現在のリチャードセコード校との関係を良好に保つためには「学校の使い方」などを活用し、ご家庭での生活指導が重要になってくると思います。また、リチャードセコード校と当補習校はナッツフリーですので、ナッツ類の持ち込みは御止めください。

最後に、現在の補習校はいろいろな面で転換期に来ていると思います。

校舎のキャパシティ、生徒の数、予算、また、片親がカナディアンの家族の増加による補習校に求める物の多様化、など30年前に補習校が開校したときとはずいぶん様子が違うでしょう。唯一同じ事は、この学校は親が我が子に日本語を学ばせるために作った学校という事です。そのために、親が先生になり、または先生を雇い、役員となって学校を運営し、ボランティア活動に参加し、毎週送り迎えし、宿題を一緒にやり・・・

この先、どのような学校になろうとも、この学校は子ども達のために作った学校という事を忘れてないでいただきたいと思います。

さあー、今年もあとわずか、来る二〇〇八年が皆様にとってよい年でありますように・・・

二〇〇七年吉日 会長 清水



### ＜校長からのメッセージ＞

今年もあとわずか、もうすぐクリスマスとお正月を迎えようとしています。皆様は冬休みをどのように過ごされるのでしょうか。この2学期にはいろいろな行事がありましたが、あっという間に終わってしまったような気がします。特に、学芸会が終わってホッとしています。これは教師だけではなく、保護者の皆様も同じではないでしょうか。そこで、今回は主に、今年の学芸会を振り返ってみたいと思います。

今年度は教師の半分以上が新任で、しかも、その内2人は10月からの新任でしたから、学芸会の指導は初めてという先生が多かったのです。それにもかかわらず、どの先生も一生懸命頑張ってくださいました。前任や代教の先生があらかじめ台本を準備してくださいましたため、10月からの先生もスムーズに学芸会の指導をすることができました。初めての先生方も経験ある先生方も、それぞれにユニークな劇を作ってくださいました。先生方、いろいろとご苦労があったこととは思いますが、本当にありがとうございました。

今回の学芸会では、保護者の方々のご協力が以前にもまして大きかったように感じています。生徒のせりふの練習にも力をいれてくださったと思います。また、大道具、小道具に、特別な工夫がなされたものや、凝ったものを用意してくださいました。衣装については、色の統一や役柄に応じたきめ細かい工夫があちこちで見られましたし、こんなにたくさんの着物がよく集まったと思う場面もありました。いくつかの背景画も新たに作成されましたが、古いものに比べてその画風(?)がとても新鮮に映りました。リハーサルで準備したものではありませんでした。学芸会当日、別の素材を持ち込んで急きょ背景を作る保護者の方もおられま

した。そのような保護者の方々の熱心さに私は感動しました。背景画交換等の舞台設定もたいへん効率よく行われました。音響、照明、写真撮影、全体の進行については役員会の方々に負うところが大きかったと思います。茶話会のためにも保護者の方々のご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

パントマイムの萱嶋さん、写真撮影のチェンさんにはたいへんお世話になりました。また、ボランティアの方々のお手伝いもたいへん助かりました。遅ればせながら、お礼を申し上げます。

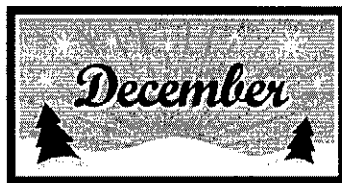
このように、多くの保護者と教師の協力のもとで毎年学芸会は行われてきましたが、そこから生徒たちが学ぶことはたいへん多かったと思います。今年も、生徒たちは出番が終わると舞台の袖に戻ってきて、「あー、緊張した」と言いつつも自信に満ちた顔を見せてくれました。中学生は自由参加なのですが、「自分たちも何かやってみよう」という声があがり、自作自演の劇を披露して、皆が学芸会で演ずることを楽しんでくれたクラスもありました。教師や保護者の中には、たいへんな苦勞や心配事があったかもしれませんが、それでもやっぱり頑張った甲斐があったと大半の方が思われたのではないのでしょうか。

さて、これから冬休みに入りますが、ふだんより長めの宿題が生徒に渡されます。ほとんどは二学期の復習ですが、作文の宿題も出されます。この作文は、2月後半までに授業で完成させ、3月発行の学校全体の作品集に載せる予定です。6年生以上の作文は、3月の弁論大会の原稿にも使われます。良い機会ですので、冬休みの間ご家庭でいろいろな話題を取り上げて話し合ってみてください。その中から生徒がテーマを選び、作文をまとめるようにして欲しいと思います。

それでは、皆様、楽しい冬休みを過ごしてください。そして、良い新年を迎えられますようお祈りいたします。

なお、3学期は1月11日（金）から始まります。

校長 常田いち子



## <学芸会を終えて>

みなさん、学芸会お疲れ様でした。疲れましたが、とても楽しい一日でした。今回の学芸会で反省会を行ったところ、一番の問題点として上がったのは、茶話会の後に、体調を悪くした方がいらしたことです。茶話会の食べ物が直接の原因かどうかは不明ですが、口に入るものですので、十分な注意が必要です。また、ナッツ禁止にもかかわらず、ナッツの含まれたものが混入していました。よって、来年からは、お菓子代金を徴収して、市販のものを準備するという案もでていきます。学芸会については、「当日の役割分担や案内を早めに出してほしい」、「準備、舞台裏のボランティアのために、準備計画表、台本の書き方を統一してほしい」、「学芸会を始めて経験する低学年の父兄への詳細説明をしてほしい」、という要望がありました。一方、幕間スライドショーと、パントマイムがとてもよかったという意見も頂きました。来年も、みなさんの笑顔と、恐怖の顔! ?のために、御協力をお願いします。

役員会 ジャクソン

## <学芸会の感想>

学芸会 ～五、六年生の挑戦～

プロジェクトX風

五年生は、気がつけばたった一人になっていた。たった一人で学芸会？困難に思えたその時、向かいの教室から、にぎやかな声が。。。「やっぱ、頭の悪いぶたは、お前だよ!」 「やっぱ、いいよね、このタイトル。リーミックス!!」 「うん、リーミックスというところが」「でも、おおかみ役がないよね。」 「誰かもう一人いればいいのに」

こうして五、六年生合同の劇「三匹のこぶたリーミックス」は誕生したのである。

この題材は小学校の最終学年にしては少し幼すぎるのではないか。脚本家の坂口（仮名）は、正直そう思った。どういう風に進めるべきかそう迷ったその時、「僕たちで作るから!」 勇樹君、蒔ちゃん、力蔵君の六年生の面々は、そう言い自分たちの家に戻っていった。こうして、劇「三匹のこぶたリーミックス」の原作は、子どもたちの手により、見事に誕生した。その原作をまとめあげた力蔵君は、これを元に台本を書き上げるよう、脚本家に手渡したのである。この自分たちでストーリーの展開を考え、まとめあげるという六年生たちを目の当たりにして、脚本家は先ほどの「幼すぎる」という考えを改めることとなった。

話し合いの中で、練習の中で一緒に過ごしながら、普段接したことが無い六年生を、そして、一人で一所懸命五年生の過程をがんばっているマーカス君を、観察しながら、台詞を考え、時には原作を大きく離れながら、台本は書き上げられた。

練習は、困難を極めた。。。としたほうが、劇的になるのだが、練習は順調にすすんでいった。この年頃特有の「照れ」が、敵ではあったが、大場先生作の見事なコスチューム、金さんの当日に至るまでのいろいろなサポート、そして池田先生の的確な助言、指導などもあり問題なくその日を迎えた。

子どもたちは緊張していた。しかしながらスポットライトを浴びた五、六年生は、ジャクソンさんのかわいらしいウェイトレスの登場でリラックスし、今まで隠していたとしか思えない演技で会場を沸かせた。蒔ちゃんは、小難しいことを軽やかに実に頭よさそうに言っていた。勇樹君は、臆病な様子をコミカルに演じて見せた。力蔵君は、「なんだかわかんないけどスゲー」で会場の爆笑を何度も誘った。五年生のエース、マークス君は、悪役を堂々と演じながら、実は円周率を少数点10桁までそして、アセチルサリチル酸の化学式をそらんじて見せた。彼らの学芸会は大成功だった。それはウケたからという理由でなく、自分たちで考えを出し合い、みなで練習し、創り上げ、それを皆の前で完結したからだった。彼らの笑顔が眩しかった。

学芸会は、保護者、子どもたち、教師がいろいろな形で協力し合い一つのもを作り上げていく貴重な行事である。そして、それに参加した誰もが、自分のクラスが一番の出来だと思ひ、自分の子どもが一番上手だと思ひ、自分のコスチュームが一番輝いていたと思ひ。実際、どの生徒も最高だった。そしてそれは、とても重要なことだと思ひ。学校はともすれば、「これができない」ということを知らず知らずのうちに強調する場になりかねない。特に日本語学校では、国語に特化しているだけになおざらである。「こんなこともできるんだ」ということを再認識できるこの場は、日本語学校の教育上とても重要なものであることを、自分なりに確信した。学芸会を終えるとどのクラスの子どもも一気にまとまり、さらに意欲的にクラスに参加する様子が見受けられることは、これと少しは関係あるのではと思ひ。(了)

日本では、大幅な学力と学習意欲の低下などの明確な結果を受け、ゆとり教育の失敗という猛反省の中にいる。中でもその大きな目的であった「生きる力を伸ばす」が逆に落ちているということに衝撃を受けているようである。ゆとり教育導入後、各学校で学芸会、運動会などの一体行事を、縮小もしくは削除してしまったことにもその原因の一部を見ることを出来るのではないだろうか。など、大層なことまで、演技を終え満足感と興奮で輝いた生徒たちの顔を見ながら考えたのである。

五年担任 坂口 宗

## 学芸会に参加して

初めての学芸会、それも指導する立場であるということに、不安と気持ちの高ぶりを感じました。ちょっとした監督…までは行きませんが、「ここをこうしてみよう、あれをあえてみよう」、という生徒達と一緒に物を作り上げていく一体感により、うれしさと楽しさが倍増した練習時間でした。「ねえ、先生、学芸会の練習をしようよ。」生徒達が気合を入れて私に言いました。「教科書読んでからね。」と私。「えええええ。」確かに勉強よりは面白いと思うのですが、とてもやる気を感じ、またうれしく思いました。

そうして迎えた本番、舞台裏ではみんなが緊張していました。「どきどきする。」「もう一回練習しようよ。」「先生、ここをこうしてもいいですか。」と本番直前まで、みんなが良い劇にしようがんばっている姿を見て、これなら大丈夫という根拠の無い確信を持ちました。いえ、きっとそれまでの練習を見ていたからこそそう思えたのでしょう。幕が開き、緊張しつつも、みんながきちんとはっきりと台詞を言え、スムーズに進むことができました。舞台設定や裏方、細かいところで支えてくださった皆さんのおかげでもあります。この場をお借りして、改めて感謝をしたいと思います。ありがとうございました。

他のクラスの劇を拝見して、それぞれが創意工夫をして面白い劇に仕上げていました。正直、ここまで本格的にやっていたものなのかと驚きました。そんな劇に刺激され、来年はどのような劇がいいかなと早速考えてしまっていました。

今回の学芸会は、一人ずつが作り上げた、まさにみんなが主役の一日。何より生徒達が楽しんでくれて良かったです。何しろ、学芸会が終わって次の週の授業中にも、「ねえ、学芸会の練習をしようよ。」と言った生徒もいたくらいですから。来年も期待できますね。

2年2組担任 今野 光

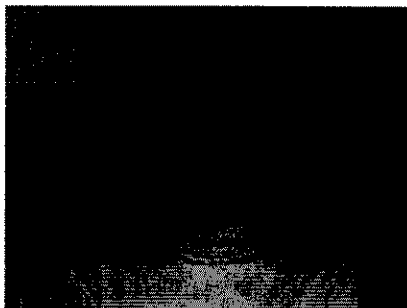


## <先生のコーナー>

9月より、本校の先生の自己紹介&クラス紹介を掲載しています。普段は、授業で教室に詰めていらっしゃるため、なかなかゆっくりお話できる機会のない先生方の生の声を聞かせていただけるコーナーです。これを機会に、休み時間にスタッフルームに先生がいらした時などに、積極的に声をかけ、お茶にお誘いしましょう。ますます保護者と先生の絆を深めていくのに役立てていただければ、と思います。

.....

#### 4年1組 片山朋子（かたやま ともこ）先生



こんにちは。4年1組の担任の片山朋子です。日本語学校の教師として働き始めたのは今年の4月からですが、3年前に一年間、図書館のボランティアで来ていたことがあるので、「どこかで見た顔だな〜」と覚えていらっしゃる方もいるかもしれませんね。カナダに来る前は、日本の高校で5年間英語を教えていました。そういうわけで学校とのお付き合いは結構長いのですが、小学校は未知の世界です！

さて、先日、日本の友達や家族にクリスマスカードを送ろうと思い立ち、早速手紙を書き始めたところ・・・ちょっと文章を書いただけで手が疲れて、字がフニャフニャになり、漢字を忘れて辞書を引いている自分がいました。確かに最近は何でもメールとパソコンで用事を済ませて、自分で字を書くことが少なくなっていますが、これはショックでした。日本で生まれて日本で育ち、20何年も日本に住んでいたのに、カナダ生活たったの4年でこんなことになってしまうなんて・・・。我が身を反省しつつ、カナダの学校に通いながら、日本語も勉強している日本語学校の皆さんのことを、あらためてすごいなあと思いました。今は大変かもしれませんが、将来きっと日本語学校で勉強してよかったと思う日が来ますので、みなさんががんばってくださいね。それではよいクリスマス&新年をお迎えください。

#### 4年2組 池澤陽子（いけざわ ようこ）先生



はじめまして。この9月から4年2組の担任になりました池澤陽子です。エドモントンに来たのは1年前

で、普段は大学院でリハビリテーション医学 (Rehabilitation Medicine)の研究室で理学療法の勉強をしています。教師の仕事と研究分野にはほとんど接点はないのですが、私がこのエドモントン補習授業校で働くと思ったのは、私自身が父の仕事の都合で、中1から高3までをカナダのトロントで過ごし、補習校の生徒だったことがあるからです。

トロントでは月曜から金曜のは現地校、土曜は一日補習校という生活でした。ただでさえ、現地校の英語での授業についていくのが大変なのに、補習校でも国語、数学、社会、理科を勉強しなければなりません。どうして自分ばかり、こんなしんどい思いをしなければならないのだろう。日本に帰りたと思ったことは幾度もありました。

でも、その努力は無駄にはなりません。「帰国子女枠」を利用して、日本の大学にも入学できました。社会人になってからも、オーストラリアからのお客様の通訳についてたり、英文の和訳を頼まれたりと重宝されました。エドモントン補習授業校の子供たちの中にも、なんで自分はカナダに住んでいるのに日本語を勉強しなければならないのだろう、と思っている子は多いと思います。でもいつか「英語と日本語ができること」がどんなに価値のあることか気付く日が来ると思います。

私自身の経験を生かしながら、エドモントン補習授業校の子供たちに実りのある授業を提供していきたいと考えております。最後になりましたが、これからもよろしくお願いたします。

#### <ボランティア募集>

EJCA スクールプログラム “Japan Today”は EJCA 会館にて、エドモントンの中学生を対象に日本の紹介をし、日本語や日本文化に触れてもらう為のプログラムです。現在、活動を行うにあたり、会場設定、後かたづけ、生徒にゆかたを着せる等のお手伝いをさせていただけるボランティアの方を探しています。

期間は2月から6月までの毎週月曜、火曜日

(但、開催日のみ。毎回11時30分頃より3時まで) レギュラーでお手伝いしていただける方には、謝礼を用意する予定です。

興味のある方は是非、下記までご連絡ください。

連絡先：浅野志保 (自宅) 437-2741

[sasano@shaw.ca](mailto:sasano@shaw.ca)

### <「おめでとう！」コーナー>

4年2組の山田花鈴さんが11月23~25日にカルガリーで開催されたフィギュアスケートの大会（Alberta Open Competition）、ソロダンスの部で銅メダル、フリースケートの部でも銅メダルに輝きました。  
花鈴さん、おめでとう！



### <「おめでとう！」コーナーへの投稿のお願い>

「おめでとう！コーナー」は、補習校生徒ならびに  
会員の学校外での活躍や業績を紹介し、称  
えていくコーナーです。コンテストで入賞  
した、所属しているスポーツチームで著し  
い活躍を遂げた、などなど、いいニュース  
を募集しています。自薦・他薦どちらでも  
結構ですので、渡辺までお知らせ下さい。



### <ニュースレターについて>

ニュースレターへの記事の掲載をご希望の方は、担  
当の渡辺までご連絡下さい。投稿の締切りは毎月第三  
金曜日、発行は第四金曜日です。

### <1・2月の当番>

- 1/11(金) ヴァン、稲毛
- 1/18(金) 植林、丁
- 1/25(金) フェドロー、山本(奈)
- 2/1(金) ヒューストン、マンゼイー
- 2/8(金) 伊藤、根本
- 2/15(金) 星、ザバルスカ
- 2/22(金) ミジャリ、中津
- 2/27(水) スワロー、プレス

当番の変更がありましたら、お早めにダンウォルドま  
でお知らせ下さい(437-3457)。

スクールニュース校正  
編集

ジャクソン 好子  
渡辺